

## 所員活動一覧（2021年4月1日～2022年3月31日）

荒木 浩

● 著書

『〈キャラクター〉の大衆文化 伝承・芸能・世界』（前川志織、木場貴俊と共編）

KADOKAWA 2021年11月 376頁

『『今昔物語集』の成立と対外観（思文閣人文叢書）』思文閣出版 2021年12月 460頁

『古典の中の地球儀—海外から見た日本文学（人文知の復興4）』NTT出版 2022年3月 280頁

『After/With コロナの「国際日本研究」——ヨーロッパからの報告』（「国際日本研究」コンソーシアム編 [荒木浩、白石恵理、松木裕美、ゴウランガ・チャラン・プラダン]）国際日本文化研究センター 2022年3月 267頁（複数言語）

● 論文

“Reviewing Japanese Dream Culture and Its History: Where Ancient, Medieval and Modern Times”, University of Latvia ed., Oriental Studies 819, University of Latvia, April 2021, pp. 12–29.（依頼論文・査読付き）

『『徒然草』の時間—序説—』仏教文学会編『仏教文学』第46号 仏教文学会 2021年6月 91頁～105頁（依頼論文・査読付き）

『釈迦の出家と羅睺羅誕生——不干斎ハビアンと南伝仏教をめぐって——』日本文学協会編『日本文学』2021年6月号 日本文学協会 2021年6月 2頁～12頁（依頼論文・査読付き）

『明石における龍宮イメージの形成—テキスト遺産としての『源氏物語』と『平家物語』をつなぐ夢』エドアルド・ジェルリーニ、河野貴美子編『古典は遺産か？日本文学におけるテキスト遺産の利用と再創造（アジア遊学261）』勉誠出版 2021年10月 174頁～189頁（依頼論文・査読付き）

『序〈キャラクター〉と〈世界〉の大衆文化史』『〈キャラクター〉の大衆文化 伝承・芸能・世界』（著書欄参照）7頁～27頁

『第4巻序論 〈キャラクター〉と〈世界〉の大衆文化史』国際日本文化研究センター・プロジェクト推進室編『日文研大衆文化研究叢書 全5巻序論集』国際日本文化研究センター 2021年11月 31頁～38頁

『〈おほけなき心〉と『源氏物語』の構造』寺田澄江、陣野英則、木村朗子編『身と心の位相—源氏物語を起点として』青簡舎 2021年12月 244頁～266頁（依頼論文・査読付き）

『The Popular Culture History of “Characters” and “Worlds”』国際日本文化研究センター・プロジェクト推進室編『日文研大衆文化研究叢書 全5巻序論集』国際日本文化研究センター 2022年3月 78頁～85頁

●その他の執筆活動

「文遊回廊 第31回 菅原孝標女『更級日記』『京都新聞』 2021年4月8日  
会議報告等「京と江戸、美の視点で比較 第2回 日文研—京都アカデミック  
ブリッジ (タイモン・スクリーチ、松平莉奈、石上阿希、内田孝と)」『京都  
新聞』 2021年4月27日

「文遊回廊 第32回 ひとりごと 心敬」『京都新聞』 2021年7月8日

「おのれを知る「日本人の忘れもの 知恵会議」」『京都新聞』 2021年7月31日

「源信という多層性と源隆国」『鴨東通信』 No.113 思文閣出版 2021年9月

「序文」『After/With コロナの「国際日本研究」——ヨーロッパからの報告』（著  
書欄参照）

「はじめに」「国際日本研究」コンソーシアム編『「国際日本研究」コンソーシ  
アム 2017→2021』国際日本文化研究センター 2022年3月

石上 阿希

●著書

『西川祐信『正徳ひな形』—影印・注釈・研究—』（加茂瑞穂と共編）臨川書店  
2022年2月 464頁

●論文

「『書籍目録』にみる枕絵と好色本」藤本幸夫編『書物・印刷・本屋—日中韓  
をめぐる本の文化史』勉誠出版 2021年6月 111頁～135頁（依頼論文）

「擬人化される身体部位」『美術フォーラム 21』44号 2021年12月 44頁～  
48頁（依頼論文）

●その他の執筆活動

会議報告等「京と江戸、美の視点で比較 第2回 日文研—京都アカデミック  
ブリッジ (荒木浩、タイモン・スクリーチ、松平莉奈、内田孝と)」『京都新  
聞』 2021年4月27日

「近世期の小袖雛形本『正徳ひな形』を読み解く：西川祐信雛形本研究会」  
『千總文化研究所年報』2号 2021年5月

「小袖をめぐる絵とことば—「文化・情報の結節点としての図像」」『NICHIBUN-  
KEN NEWSLETTER』国際日本文化研究センター 2021年9月

コラム「窓辺」（連載13回）『静岡新聞』（夕刊） 2021年10月4日～12月26日

「図録解題『訓蒙図彙』」安井眞奈美、ローレンス・マルソー、伊藤謙編著『身  
体イメージの創造 感染症事態に考える伝承・医療・アート』図録』国際日  
本文化研究センター 2022年2月

磯田 道史

●著書

『歴史のミカタ』（井上章一と共著）祥伝社 2021年7月 296頁

●その他の執筆活動

- 「心のふるさと 心の貯金」『幼児教育じほう』49巻1号 全国国公立幼稚園・こども園長会事務局「時報部」 2021年4月
- 「私のいえ、まち、くらし。」『at home』473号 アットホーム株式会社 2021年4月
- 「脳内リゾート」でコロナ禍を生き抜く」『Healthy Life』142号 総合健診センターヘルチェック 2021年4月
- 書評「浦島充佳著『新型コロナ データで迫るその姿』」『毎日新聞』 2021年4月10日
- 「マニアックさ 日本の武器」『日本経済新聞』 2021年4月10日
- 「世襲好き」の心性見つめたい」『毎日新聞』 2021年4月16日
- 「磯田道史の古今をちこち」（連載12回）『読売新聞』 2021年4月21日～2022年3月9日
- 「本草学のマニアックな交流をふたたび」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本文化研究センター 2021年5月
- 書評「フレデリック・クレインズ著『ウィリアム・アダムス 家康に愛された男・三浦按針』」『毎日新聞』 2021年5月22日
- 「緊急鼎談 危機を好機に変える処方箋」（古川元久、水野和夫と共著）『週刊朝日』126号 2021年6月
- 「それは、日本史にとって極めて重要な時であった」『歴史街道』398号 PHP研究所 2021年6月
- 「歴史は目的ではなく手段である。」『Galac』624号 KADOKAWA 2021年6月
- 「私の20代」『ひととき』21巻7号 ウェッジ 2021年6月
- 「観世大夫の家計簿」『能』757号 京都観世会館会報誌 2021年6月
- 「池上彰のこれ聞いていいですか？」（池上彰と共著）『毎日新聞』 2021年6月13日
- 「スペイン風邪に学ぶ コロナ終息までの歴史シミュレーション」『潮』720号 潮出版社 2021年7月
- 書評「仮名垣魯文原著『安政コロリ流行記』」『毎日新聞』 2021年7月10日
- 「内閣文庫に眠る徳川幕府の忍びたち。」『東京人』99巻 都市出版 2021年8月
- 書評「山口謠司著『明治の説得王・末松謙澄』」『毎日新聞』 2021年8月28日
- 「歴史からひもとく会計の役割」（連載6回）（坂本孝司と共著）『読売新聞』 2021年9月15日～9月24日
- 「歴史家がみた日本農業の九変化」『月刊JA』67巻7号 全国農業組合中央会 2021年10月
- 「近代国家への道 旧幕臣たちが果たした役割とは」『歴史街道』402号 PHP研究所 2021年10月

「天下のぞむ構え」『京都新聞』 2021年10月1日  
書評「吉村智博著『大阪マージナルガイド』」『毎日新聞』 2021年10月9日  
「山田方谷の精神に学ぶ」『毎日新聞』 2021年10月14日  
対談「第73回正倉院展協賛記念 特別対談（小河義美と）」『読売新聞』 2022年10月30日  
対談「歴史に学ぶパンデミック（水谷哲也と）」『現代化学』608号 2021年11月  
「ゆえに「準備」を常に怠らず」『聖教新聞』 2021年11月7日  
「新春対談 歴史が教えるコロナ後の社会」（伊藤公平と共著）『三田評論』1262号 慶應大学出版会 2022年1月  
「うなぎの始末」『うなぎ百撰』153巻 うなぎ百撰会 2022年1月  
「(耕論) 時代劇どこへゆく」『朝日新聞』 2022年1月18日  
書評「田代和生編著『近代日朝交流資料草書Ⅱ 方長老上京日史・飲冰行記』」『毎日新聞』 2022年1月19日  
「第25回 菜の花忌シンポジウム 胡蝶の夢」（澤田瞳子、村上もとか、澤芳樹、古屋和雄と共著）『週刊朝日』127巻12号 2022年3月  
「明治新政府の真実」『歴史街道』407号 PHP研究所 2022年3月  
「「自然災害伝承碑」からのメッセージ」『信濃毎日新聞』 2022年3月11日  
書評「赤瀬浩著『長崎丸山遊廓 江戸時代のワンダーランド』」『毎日新聞』 2022年3月12日  
「「道路から考える新時代の防災・減災」フォーラム」『読売新聞』 2022年3月15日

(31)

## 磯前 順一

### ● 著書

『差別の構造と国民国家—宗教と公共性』（シリーズ宗教と差別1）（吉村智博、浅居明彦と監修、上村静・荻田真司・川村覚文・関口寛・寺戸淳子・山本昭宏編）法蔵館 2021年11月 340頁

『탈국민국가라는 외재적 식민지주의 [脱国民国家という外在的植民地主義]』（이소마에 준이치/히라노 가쓰야/전성곤 공저 [平野克弥、全成坤と共著]）소명출판 [ソミョン出版社] 2021年12月 330頁

### ● 論文

“Secularism and Untranslatability: Reading Talal Asad’s Secular Translations” (co-authored with Pradhan, G.C.) Mark Williams ed., *Religious Studies Review*, 47(2), Rice University, June 2021, pp. 165–175. (査読付き)

### ● その他の執筆活動

エッセイ「人文学の死—震災と学問」島蘭進、末木文美士、大谷栄一、西村明編『近代日本宗教史6』春秋社 2021年7月

書評「大下英治『ショーケン 天才と狂気』(青志社、二〇二一年五月、四六四頁)」『日文研』66号 国際日本文化研究センター 2021年9月

## 伊東 貴之

### ●著書

『「明治日本と革命中国」の思想史——近代東アジアにおける知とナショナリズムの相互環流』(楊際開と共編著) ミネルヴァ書房 2021年7月 464頁

『東アジアの王権と秩序——思想・宗教・儀礼を中心として』(編著) 汲古書院 2021年10月 948頁

『東アジアにおける哲学の生成と発展——間文化の視点から』(廖欽彬、山村 奨、河合一樹と共編著) 法政大学出版局 2022年2月 886頁

### ●論文

「伝統中国の国家・社会論のための一考察——「伝統中国をどう捉えるか？」補遺一」『東アジアの王権と秩序——思想・宗教・儀礼を中心として』(著書欄参照) 603頁～618頁(依頼論文)

「「禮教」の滲透・汎化とその展開——中國を中心とする近世東アジアの事例から一」京都大学中国哲学史研究会、王孫涵之編『中国思想史研究』43 京都大学中国哲学史研究会 2022年3月 103頁～145頁(依頼論文・査読付き)

### ●その他の執筆活動

書評「「青／蒼／碧／翠」の誘惑と躍動——ある「青年」漢詩人の誕生：谷口 匡『西遊詩卷——頼山陽の九州漫遊』」『週刊 読書人』3386号 2021年4月  
「あとがき」『「明治日本と革命中国」の思想史——近代東アジアにおける知とナショナリズムの相互環流』(著書欄参照)

「序言——日文研の共同研究会と本論集の趣旨」『東アジアの王権と秩序——思想・宗教・儀礼を中心として』(著書欄参照)

「跋文——共同研究会の経緯を踏まえて」『東アジアの王権と秩序——思想・宗教・儀礼を中心として』(著書欄参照)

「あとがき——東アジアにおける哲学の命運」『東アジアにおける哲学の生成と発展——間文化の視点から』(著書欄参照)

書評「羽根次郎著『物的中国論——歴史と物質から見る「大国」』(青土社)」一般社団法人・中国研究所『中国研究月報』Vol.75/No.11 (No.885) 一般社団法人・中国研究所 2021年11月

エッセイ「「常態化する(理念なき)米中対立の中で——多様化する経済連携枠組、中国語圏文学の翻訳は活況」【2021年：中国文学・文化年末回顧】」『図書新聞』3524号 武久出版 2021年12月

書評「評呂玉新《政体・文明・族群之辨——徳川日本思想史》」(中国語) 榮偉(David Rong)『当代中国評論 CONTEMPORARY CHINA REVIEW (QUARTERY)』2021冬季刊(2021 Winter Issue)(総第七期) 博登書屋

(Bouden House, New York) 2021年12月  
書評「楊儒賓『1949 禮讃』(台北・聯經出版)」『日本研究』第64集 国際日本文化研究センター 2022年3月

## 井上 章一

### ●著書

『歴史のミカタ』(磯田道史と共著) 祥伝社 2021年7月 296頁  
『南蛮幻想 ユリシーズ伝説と安土城』(上・下) 草思社 2021年8月 400頁・368頁  
『イケズな東京 150年の良い遺産、ダメな遺産』(青木淳と共著) 中央公論新社 2022年1月 224頁

### ●論文

「美貌の歴史と美術の歴史」荒木浩、前川志織、木場貴俊編『〈キャラクター〉の大衆文化 伝承・芸能・世界』KADOKAWA 2021年11月 89頁～110頁(依頼論文)  
「いわゆる「帝冠様式」と中国現代建築史—旧満州、新京の官衙を手がかりに」劉建輝、石川肇編『戦時下の大衆文化—統制・拡張・東アジア—』KADOKAWA 2022年2月 215頁～238頁(依頼論文)

### ●その他の執筆活動

書評「藤田勝也『平安貴族の住まい—寝殿造から読み直す日本住宅史』(吉川弘文館)」『京都民報』2021年4月25日  
書評「この人に訊け！」(連載8回)『週刊ポスト』2021年3月～2022年3月  
「京都の端から、こんにちは」(連載12回)『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本文化研究センター 2021年4月～2022年3月  
書評「「火葬を拒む心性のありよう」高橋繁行『土葬の村』(講談社現代新書)」『日本経済新聞』2021年4月3日  
「海の向こうで日本は。」(連載21回)『産経新聞』(夕刊) 2021年4月5日～2022年3月16日  
エッセイ「ノーパン喫茶と大宅文庫」『大宅壮一文庫解体新書』勉誠出版 2021年5月  
「それでも企業人は「城」を捨てられない」『中央公論』2021年6月号 2021年5月  
書評「「音楽史から見る「権力」と「社会」」猪木武徳『社会思想としてのクラシック音楽』(新潮選書)」『波』2021年6月号 新潮社 2021年5月  
インタビュー「耕論 いまどきの性教育」『朝日新聞』2021年5月8日  
インタビュー「性教育、親の「逃げ」にもきっと意味が」『朝日新聞デジタル』2021年5月11日  
インタビュー「“よそさん”が京都で暮らすには？」『TRANSIT』52号 講談

- 社 2021年6月
- エッセイ「和をもって尊しとする」民族の街並みとは思えない光景（再録）  
『日本人の忘れもの 知恵会議』京都新聞出版センター 2021年6月
- 「女になった英雄たち」（連載15回）『婦人公論.jp』中央公論新社 2021年7月～2022年3月
- インタビュー「紙面検証 コロナ禍 関西経済の針路探る」『読売新聞』2021年7月18日
- 「王朝時代の実像によせて」『王朝時代の実像』臨川書店 2021年9月
- 「ブラジルのフェージョアーダ」『あまから手帖』2021年10月号 クリエテ関西 2021年9月
- 「地球と地域のあいだには」『公研』10月号 公益産業研究調査会 2021年10月
- 「ラトビアの日本語学校」「関西なまりの英語」一心寺編『ちょっといい話 第15集』東方出版 2021年10月
- インタビュー「いい言葉、いい人生」『PHP』2021年11月号 PHP研究所 2021年10月
- インタビュー「時代の葉 「エエカゲンが面白い」 森毅」『朝日新聞』（夕刊）2021年11月17日
- インタビュー「「美人会長」発言で考えたい」『週刊ポスト』11月26日号 2021年11月
- 「時評 土足の限界」『アステイオン』95号 サントリー文化財団 2021年11月
- 「日本人が引き継いだ封建的精神「一所懸命」」『中央公論』2021年12月号 2021年11月
- インタビュー「オレたちが受けた昭和の性教育」『週刊ポスト』12月10日号 2021年11月
- インタビュー「開運パワースポット 京都に眠る7つの謎」『プレジデント』2022.2.4号 プレジデント社 2022年1月
- 「第25回司馬遼太郎賞選評 文化的な遺伝子が支配 あなどれない歴史」石川禎浩『中国共産党、その百年』（筑摩選書）司馬遼太郎記念館会誌『遼』2022年冬季号（第82号）公益財団法人司馬遼太郎記念財団 2022年1月
- インタビュー「京都VS滋賀」『毎日新聞』2022年1月1日
- 書評「理屈と価値観の変化たどる」勝又基『親孝行の日本史』（中公新書）『日本経済新聞』2022年1月15日
- インタビュー「私が見た古代エジプト展」『産経新聞』（夕刊）2022年1月19日
- 「弥生と大阪」『公研』3月号 公益産業研究調査会 2022年3月
- 解説「平山亜佐子『明治・大正・昭和 不良少女伝—莫連女と少女ギャング団』（筑摩書房）」筑摩書房 2022年3月

- 「埴原先生に、禪を問うた時」新学術領域研究ヤポネシアゲノム 季刊誌  
『Yaponesian』第3巻ふゆ号 新学術領域研究ヤポネシアゲノム領域事務局  
2022年3月
- 「パイオニア精神ただよう稀少雑誌コレクション」『社会文化史データベース  
性風俗稀少雑誌コレクション』丸善雄松堂 2022年3月

#### 牛村 圭

- 著書

『ストックホルムの旭日——文明としてのオリンピックと明治日本』中央公論  
新社 2021年7月 374頁

- 論文

「1年遅れのTOKYO2020を終えて」『日本戦略研究フォーラム季報』Vol.90  
日本戦略研究フォーラム 2021年10月 114頁～120頁（依頼論文）

- その他の執筆活動

「目を見張る運動用具の進化」『京都新聞』2021年9月10日

「100年前の競技会に迫る」『神戸新聞』2021年11月7日

#### 榎本 渉

- 著書

『中世禅の知』（末木文美士監修、亀山隆彦・米田真理子と共編著）臨川書店  
2021年7月 336頁

- 論文

「日元間の僧侶の往来規模」櫻井智美、飯山知保、森田憲司、渡辺健哉編『元  
朝の歴史 モンゴル帝国期の東ユーラシア』勉誠出版 2021年6月 226  
頁～238頁（依頼論文）

「日中交流史の中の中世禅宗史」『中世禅の知』（著書欄参照）臨川書店 2021  
年7月 37頁～72頁（依頼論文）

「日本における宋元印章文化」日本歴史学会編『日本歴史』884 吉川弘文館  
2022年1月 21頁～27頁（依頼論文）

- その他の執筆活動

「大宰府・博多に入った宋代仏教」『西日本文化』500 西日本文化協会 2021  
年10月

#### 大塚 英志

- 著書

『物語消費論「ビックリマン」の神話学』星海社 2021年7月 281頁

『シン・モノガタリ・ショウヒ・ロン 歴史・陰謀・労働・疎外』星海社  
2021年8月 204頁

『運動としての大衆文化 協働・ファン・文化工作』（編）水声社 2021年9月 480頁

『戦争と日本アニメ 『桃太郎 海の神兵』とは何だったのか』（佐野明子・堀ひかり編著、他と共著）青弓社 2022年1月 181頁

『戦時下の大衆文化—統制・拡張・東アジア—』（劉建輝・石川肇編、他と共著）KADOKAWA 2022年2月 384頁

『メキシコ漫画イストリエタ＝Mexican Historieta 民俗文化としての漫画表現』（アルバロ・エルナンデス編、他と共著）思文閣 2022年3月 400頁

『大東亜共栄圏のクールジャパン 「協働」する文化工作』集英社 2022年3月 318頁

●論文

「蘭学としての「漫画」 近現代略画・まんが入門書におけるライラッセ『大絵画本』の系譜」『ユリイカ』青土社 2021年4月 157頁～170頁

インタビュー「一九八〇年代とサブカルチャー」宇野田尚哉・坪井秀人編著『対抗文化史 冷戦期日本の表現と運動』大阪大学出版会 2021年10月 323頁～360頁

●その他の執筆活動

「まんがでわかるまんがの描き方」（砂威、浅野龍哉と共著）『ヤングエース』KADOKAWA 2021年4月～2022年3月

書評「柄谷行人『ニュー・アソシエーション宣言』」『週刊ポスト』2021年4月9日号 2021年3月

書評「パク・ソルメ著／斎藤真理子訳『もう死んでいる十二人の女たちと』」『週刊ポスト』2021年5月21日号 2021年5月

書評「ヘンリー・ジェンキンス著／渡部宏樹他訳『コンヴァージェンス・カルチャー ファンとメディアがつくる参加型文化』」『週刊ポスト』2021年6月25日号 2021年6月

書評「竹倉史人『土偶を読む 130年間解かれなかった縄文神話の謎』」『週刊ポスト』2021年9月3日号 2021年8月

書評「葉真中顕『灼熱』」『週刊ポスト』2021年11月5日号 2021年10月

書評「西谷格『ルポ デジタルチャイナ体験記』」『週刊ポスト』2022年1月7日号 2021年12月

書評「大童澄瞳『映像研には手を出すな！』」『週刊ポスト』2022年1月21日号 2022年1月

書評「キム・チョヨプ他著／斎藤真理子他訳『最後のライオニ 韓国パンデミック SF小説集』」『週刊ポスト』2022年3月25日号 2022年3月

## 楠 綾子

### ●論文

「冷戦下の日本外交の出発点 事例：サンフランシスコ講和条約・日米安全保障条約の選択」大矢根聡編『戦後日本外交からみる国際関係—歴史と理論をつなぐ視座』ミネルヴァ書房 2021年4月 3頁～11頁（依頼論文）

### ●その他の執筆活動

『オンライン版 宮澤喜一関係文書』解題」伊藤隆監修『オンライン版 宮澤喜一関係文書』丸善雄松堂 2021年12月

「コロナと国際関係」「国際日本研究」コンソーシアム編 [荒木浩、白石恵理、松木裕美、ゴウランガ・チャラン・プラダン]『After/With コロナの「国際日本研究」——ヨーロッパからの報告』国際日本文化研究センター 2022年3月

## 倉本 一宏

### ●著書

『現代語訳 小右記12 法成寺の興隆』（編）吉川弘文館 2021年4月 310頁

『新説 戦乱の日本史』（亀田俊和、川戸貴史、千田嘉博、長南政義、手嶋泰伸と共著）SBクリエイティブ 2021年8月 240頁

『王朝貴族の実像1 王朝再読』（編・監修）臨川書店 2021年8月 424頁

『王朝貴族の実像2 京職と支配』（監修、市川理恵著）臨川書店 2021年8月 260頁

『権記 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典』（編、藤原行成著）KADOKAWA 2021年9月 336頁

『現代語訳 小右記13 道長女の不幸』（編）吉川弘文館 2021年10月 304頁

「日本古代の君主号をめぐる一特に撰関期について」伊東貴之編『東アジアの王権と秩序——思想・宗教・儀礼を中心として』汲古書院 2021年10月 303頁～318頁（依頼論文）

『平安京の下級官人』講談社 2022年1月 272頁

『王朝貴族の実像3 病悩と治療』（監修、瀬戸まゆみ著）臨川書店 2022年2月 240頁

### ●その他の執筆活動

「平安貴族列伝（29）～（38）」『JBpress』日本ビジネスプレス 2021年4月～11月

「古代史の核心×革新5～12」『京都新聞』他各地方新聞 2021年4月20日～11月20日

「共同研究「貴族とは何か、武士とは何か」について」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本文化研究センター 2021年6月

書評「五味文彦著『武士論 古代中世史から見直す』（講談社）」『日本経済新

聞』 2021年6月26日

「解説」に代えて『王朝貴族の実像1 王朝再読』（著書欄参照）

「古代の戦乱」『新説 戦乱の日本史』（著書欄参照）

書評「関幸彦著『刀伊の入寇』（中公新書）」『産経新聞』 2021年9月19日

「ちょっといい話」一心寺編『ちょっといい話〈第15集〉各界名士による心洗われるお話』15 東方出版 2021年10月

「邪馬台国の外交と戦争」『歴史道』vol.18 朝日新聞出版 2021年11月

「平安京のある下級官人」『講談社現代ビジネス』 講談社 2022年1月

## フレデリック・クレインス

### ●著書

『企画展「明石博高一京都近代化の先駆者」図録』（松田清、光平有希と共編著）  
国際日本文化研究センター 2022年3月 36頁

### ●その他の執筆活動

「鍾馗さんと聖母マリアの共通点（現代のことば）」『京都新聞』 2021年5月21日

「鴨川の涼を求めて（現代のことば）」『京都新聞』 2021年7月12日

「長崎奉行葬列図（ティツィング『日本風俗図説』パリ、1819年）」『日文研』  
66号 国際日本文化研究センター 2021年9月

項目執筆「ドドネウス『草木誌』」青木歳幸、他編『洋学史研究事典』 思文閣  
出版 2021年9月

「二条室町のオランダ人（現代のことば）」『京都新聞』 2021年9月9日

「誤記の謎と新発見（The Mystery of an Error and a New Discovery）」  
『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本文化研究センター 2012年11月

「京都人の会話術（現代のことば）」『京都新聞』 2021年11月19日

「雪景色の京都（現代のことば）」『京都新聞』 2022年1月28日

項目執筆「会員機関紹介② 総合研究大学院大学 文化科学研究科国際日本研究専攻」「国際日本研究」コンソーシアム編「荒木浩、白石恵理、松木裕美、ゴウランガ・チャラン・プラダン」『After/With コロナの「国際日本研究」——ヨーロッパからの報告』国際日本文化研究センター 2022年3月

「京都の桜熱（現代のことば）」『京都新聞』 2022年3月31日

## 呉座 勇一

### ●論文

「在地領主法」日本史史料研究会・松園潤一郎編『室町・戦国時代の法の世界』  
吉川弘文館 2021年6月 61頁～74頁（依頼論文・査読付き）

## 白石 恵理

### ● 著書

『After/With コロナの「国際日本研究」——ヨーロッパからの報告』（「国際日本研究」コンソーシアム編 [荒木浩、白石恵理、松木裕美、ゴウランガ・チャラン・プラダン]）国際日本文化研究センター 2022年3月 267頁（複数言語）

### ● 論文

「蓮月と松浦武四郎—京と蝦夷、文化・情報の邂逅」北海道大学芸術学研究室編『アートと、そのあわいで—北村清彦教授北大退職記念論集』中西出版 2021年5月 84頁～91頁

“Fictitious Images of the Ainu: *Ishū Retsuzō* and Its Back Story,” John Breen and Edward Boyle, eds., *Japan Review*, vol. 36, International Research Center for Japanese Studies, February 2022, pp. 89–109. (査読付き)

### ● その他の執筆活動

書評「ロバート・T・シンガー、河合正朝編『日本美術にみる動物の姿』『日本研究』第64集 国際日本文化研究センター 2022年3月

## タイモン・スクリーチ

### ● その他の執筆活動

「Research Interests (研究関心事の変遷)」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本文化研究センター 2021年12月

(39)

## 関野 樹

### ● 論文

「期間同士の関係に基づくあいまいな時間データの精緻化」じんもんこん2021プログラム委員会編『情報処理学会シンポジウムシリーズ じんもんこん2021論文集』情報処理学会 2021年12月 2頁～9頁（査読付き）

“Refinement of uncertain temporal data based on relations between time intervals.”, PNC 2021 Program Committee ed., *Proceedings of the 2021 Pacific Neighborhood Consortium Annual Conference and Joint Meetings (PNC)*, IEEE, January 2022. (査読付き)

### ● その他の執筆活動

解説「研究基盤データの役割と活用」『総合資料学の創成 ニューズレター』11号 国立歴史民俗博物館 2021年10月

「人文学研究におけるオンライン上の研究資源—現状と課題」『国際日本研究』コンソーシアム編 [荒木浩、白石恵理、松木裕美、ゴウランガ・チャラン・プラダン] 『After/With コロナの「国際日本研究」——ヨーロッパからの報告』国際日本文化研究センター 2022年3月

## 瀧井 一博

### ●著書

『「歴史の黄昏」の彼方へ—危機の文明史観』(野田宣雄著、竹中亨、佐藤卓己、植村和秀と共編) 千倉書房 2021年11月 528頁

### ●論文

「大久保利通と立憲君主制への道」明治神宮国際神道文化研究所編『神園』26 明治神宮国際神道文化研究所 2021年11月 1頁～16頁(依頼論文)

### ●その他の執筆活動

「中国の弁当箱(現代のことば)」『京都新聞』(夕刊) 2021年4月14日

「政治学の古典を読む(三五) 明治憲法史の大きな壁(稲田正次『明治憲法成立史』上下、有斐閣、一九六〇年、一九六二年)」『究』第122号 ミネルヴァ書房 2021年5月

「政治学の古典を読む(三六) 政治学の体系(アリストテレス、牛田徳子訳『政治学』、京都大学出版会、二〇〇一年)」『究』第125号 ミネルヴァ書房 2021年8月

「政治学の古典を読む(三七) 国家の公益と政治家の私益(マイネッケ著(岸田達也訳)『近代史における国家理性の理念』I、II、中公クラシックス、二〇〇一年)」『究』第128号 ミネルヴァ書房 2021年11月

(40)

「政治学の古典を読む(三八) 体系化する精神(磯村哲『社会法学の展開と構造』日本評論社、一九七五年)」『究』第131号 ミネルヴァ書房 2022年2月

## 坪井 秀人

### ●著書

『対抗文化史 冷戦期日本の表現と運動』(宇野田尚哉と共編著) 大阪大学出版会 2021年10月 370頁

『戦後日本の傷跡』(編著) 臨川書店 2022年2月 376頁

### ●論文

「路上の詩想—寺山修司と〈1968〉」『対抗文化史 冷戦期日本の表現と運動』(著書欄参照) 183頁～201頁

“Anorexia Speaks: Eating Disorders in Modern Japanese Films, Novels, Manga, and Poetry” Gérard Siary, Toshio Takemoto, Victor Vuilleumier et Yinde Zhang, eds., *Le corps dans les littératures modernes d’Asie orientale: discours, représentation, intermédialité*, Collège de France, February 2022, PP.1. (依頼論文)

「妻の崩壊——傷跡としての『成熟と喪失』」『戦後日本の傷跡』(著書欄参照) 321頁～333頁

「故郷とは子ども時代のこと——歌のなかの安野光雅」ユリイカ編集部編『ユリイカ』2021年7月臨時増刊号 青土社 2021年6月 275頁～291頁(依

頼論文)

「荒地を荒地として生きること、他対話1～5（酒井直樹と）」現代詩手帖編集部編『現代詩手帖』2021年8月号～2022年3月号 思潮社 2021年7月～2022年2月 48頁～62頁、他

「権力と告白——〈更生〉につながる転向の物語」日本社会文学会編『社会文学』第54号 日本社会文学会 2021年8月 52頁～64頁（依頼論文）

●その他の執筆活動

「〈戦後〉の再審のために」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本文化研究センター 2022年2月

### 平松 誠

●その他の執筆活動

「日本と世界の距離」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本文化研究センター 2021年11月

### エドワード・ボイル

●論文

“Shifting borders of memory: Japan’s Industrial Heritage Information Centre” Yujie Zhu, William Logan, eds., *Journal of Cultural Heritage Management and Sustainable Development* 12.1, emerald publishing, January 2022, pp.19–31.（依頼論文・査読付き）

●その他の執筆活動

「Borders and Interfaces: Creating Connections in a Fragmented World（境界と接点：分断された世界をつなぎなおす）」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本文化研究センター 2021年12月

“Imagined Geographies in the Indo-Tibetan Borderlands: Culture, Politics, Place, by Swargajyoti Gohain, Amsterdam, Amsterdam University Press, 2020,” *South Asia: Journal of South Asian Studies*, 45(2), February 2022.

### 前川 志織

●著書

『〈キャラクター〉の大衆文化 伝承・芸能・世界』（荒木浩、木場貴俊と共編）KADOKAWA 2021年11月 376頁

●論文

「キャラメルのお話としての子ども—戦間期日本の洋菓子広告と童画風図案」大塚英志編『運動としての大衆文化 協働・ファン・文化工作』水声社 2021年9月 93頁～112頁

「「キャラクター」としての麗子——画家・岸田劉生の《麗子像》連作から」

『〈キャラクター〉の大衆文化 伝承・芸能・世界』（著書欄参照）131頁～153頁

## 松木 裕美

### ●著書

『イサム・ノグチの空間芸術 危機の時代のデザイン』淡交社 2021年4月  
256頁

『After/With コロナの「国際日本研究」——ヨーロッパからの報告』（「国際日本研究」コンソーシアム編 [荒木浩、白石恵理、松木裕美、ゴウランガ・チャラン・プラダン]）国際日本文化研究センター 2022年3月 267頁（複数言語）

『世界の日本研究』2021（編）国際日本文化研究センター 2022年3月 85頁（複数言語）

### ●その他の執筆活動

インタビュー「『イサム・ノグチの空間芸術』刊行記念インタビュー 危機をきっかけに、デザインで価値観を変える」『淡交』937号 淡交社 2021年8月

「口絵解説：ジャパニーズ・ティー・ガーデン（サンフランシスコ）」『日本研究』第63集 国際日本文化研究センター 2021年10月

“Fountain of Peace and Japanese Garden” and “Interview with Motonori Suzue”  
Nuria Sanz ed., *UNESCO Art Collection*, UNESCO, November 2021.

(42)

## 松田 利彦

### ●著書

『帝国のはざまを生きる——交錯する国境、人の移動、アイデンティティ』（蘭信三、李洪章、原祐介、坂部晶子、八尾祥平と共編著）みずき書林 2022年3月 726頁

### ●論文

「日本赤十字社と朝鮮—日清戦争期から韓国併合まで」『年報朝鮮学』第24号 2021年12月 1頁～30頁（査読付き）。

「1950年代末～1960年代日本における韓国人の朝鮮統一運動—『統一朝鮮新聞』の分析を軸に」『帝国のはざまを生きる——交錯する国境、人の移動、アイデンティティ』（著書欄参照）409頁～441頁（依頼論文・査読付き）

「大韓帝国期漢城における水道建設—植民地都市「京城」の二重構造論との関連から」李暁東・李正吉編『北東アジアにおける近代的空間—その形成と影響』明石書店 2022年3月 505頁～527頁（依頼論文）

「대한제국기 한성의 수도 건설: 식민지 도시 경성의 이중 구조론과의 관련으로부터」리샤오둥・이정길編『동북아 근대공간의 현성과 그 영향』소명출

- 刊 2022年3月 667頁～697頁（依頼論文）
- 「大韓帝国期漢城的自来水管道路建設—從其與殖民地都市「京城」的二重構造論的関連説起」李曉東・李正吉編『東北亜的近代空間的形成及其影響』秀威資訊科技股份有限公司 2022年3月 399頁～419頁（依頼論文）
- その他の執筆活動
- 「民族運動抑えつつ同化図る」赤旗編集局編『日韓の歴史をたどる 支配と抑圧、朝鮮蔑視観の実相』新日本出版社 2021年4月
- 書評「植野弘子、上水流久彦編『帝国日本における越境・断絶・残像—一人の移動』『帝国日本における越境・断絶・残像—モノの移動』（風響社、2020年2月）」『日本植民地研究』第33号 日本植民地研究会 2021年6月
- 書評「飯倉江里衣『満洲国軍朝鮮人の植民地解放前後史—日本植民地下の軍事経験と韓国軍への連続性』（有志舎、2021年）」『図書新聞』3503号 2021年7月
- 「共同研究「植民地帝国日本とグローバルな知の連環」」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』国際日本文化研究センター 2021年10月
- 項目執筆「京都府協和会、他2件」（韓国語）『在日朝鮮人団体事典』民族問題研究所 2022年2月

## 光平 有希

- 著書

- 『企画展「明石博高一京都近代化の先駆者」図録』（松田清、フレデリック・クレインズと共編著）国際日本文化研究センター 2022年3月 36頁
- 『ポップなジャポニカ、五線譜に舞う—19世紀～20世紀初頭の西洋音楽に描かれた日本—』（編著）臨川書店 2022年3月 306頁

- 論文

- 「昭和前期の松沢病院にみる「慰楽」—治療と日常のあいだに響く音」細川周平編著『音と耳から考える—歴史・身体・テクノロジー』アルテスパブリッシング 2021年10月 226頁～241頁

- その他の執筆活動

- 「『蝶々夫人』だけではなかった 音楽のジャポニスム～京都市立芸術大学のセミナーをレポート」『オンラインマガジン「ほとんど0円大学」』株式会社 hotozero 2022年2月
- 「感染症流行期にみる『音』・『音楽』を介在したコミュニケーションの今昔」『人間文化研究機構ホームページ（コロナ時代を生き抜く—くらしに人文知）』人間文化研究機構 2022年3月
- 「口絵解説 カール・アドルフ・フローレンツ『極東からの詩の挨拶：日本の詩（英文和哥集）』『日本研究』国際日本文化研究センター 2022年3月

## 安井 眞奈美

### ●著書

『身体の大衆文化 描く・着る・歌う』（エルナンデス・アルバロと共編著）  
KADOKAWA 2021年11月 352頁

『「身体イメージの創造 感染症事態に考える伝承・医療・アート」図録』（ローレンス・マルソー、伊藤謙と共編著）国際日本文化研究センター 2022年1月 64頁（複数言語）

『狙われた身体——病いと妖怪とジェンダー』平凡社 2022年2月 276頁

『妖怪文化研究の新時代』（小松和彦、南郷晃子と共編著）せりか書房 2022年3月 312頁

### ●論文

「ムラの変遷を追う——能登半島の「ツラ」について」川村清志、高科真紀編『七浦から世界へ——調査・研究・活用としてのフィールド』大学共同利用機関法人人間文化研究機構、国立歴史民俗博物館 2021年7月 28頁～47頁（依頼論文）

「日本民間信仰中の身体描画与形塑：兼论与妖怪图像之关联」（翻訳：姜姍）『中医典籍与文化（2021年第二辑 总第3期）——东亚医学思想与流转』2021年12月 社会科学文献出版社 64頁～78頁（依頼論文）

(44)

「願いを絵に託す——近現代の小絵馬」『身体の大衆文化 描く・着る・歌う』（著書欄参照）213頁～246頁

「After/With コロナの国際日本研究——パネル発表「ヨーロッパからの報告」を受けて」「国際日本研究」コンソーシアム編 [荒木浩、白石恵理、松木裕美、ゴウランガ・チャラン・プラダン] 『After/With コロナの「国際日本研究」——ヨーロッパからの報告』国際日本文化研究センター 2022年3月 119頁～134頁（依頼論文）

### ●その他の執筆活動

「コロナ禍のお産——妊産婦と家族にとっての「思いがけないお産」」（中本剛二、伏見裕子と共著）『日本民俗学』307 日本民俗学会 2021年8月

インタビュー「新冠肺炎疫情下の日本妖怪学研究（刘晓峰と）」（中国語）『中国社会科学報（オンライン）』中国社会科学网 2021年6月

インタビュー「人コミュ通信 vol.17 特別展「身体イメージの創造 感染症時代に考える伝承・医療・アート」にかける思い——本展企画者・安井眞奈美教授にお話をうかがってきました」『国際日本文化研究センターウェブサイト』国際日本文化研究センター 2022年2月

## 山田 奨治

### ●著書

『著作権は文化を発展させるのか——人権と文化コモンズ』人文書院 2021年

7月 302頁

『일본대중문화와 내셔널리즘 [日本大衆文化とナショナルリズム]』(박순애と共編著) 지식과교양 2021年10月 395頁(韓国語)

●論文

「みる／みられる自由・権利・義務——それらに関わる法と現在」高馬京子、松本健太郎『〈みる／みられる〉のメディア論—理論・技術・表象・社会から考える視覚関係』ナカニシヤ出版 2021年4月 173頁～184頁(依頼論文)

「프롤로그 대중문화와 내셔널리즘의 깊은 관계」박순애、야마다쇼지『일본대중문화와 내셔널리즘』지식과교양 2021年10月 3頁～8頁(依頼論文)

「『正徳ひな形』のデータ分析」石上阿希、加茂瑞穂編『西川祐信「正徳雛形」』臨川書院 2022年3月 411頁～417頁(依頼論文・査読付き)

●その他の執筆活動

「妖怪データベースの使われ方」「パネル討論・妖怪研究から文化創造へ(小松和彦、安井眞奈美、南郷晃子と)」「妖怪データベースの回顧と展望」「妖怪データベースの創造——妖怪プロジェクト室かく闘えり」小松和彦、安井眞奈美、南郷晃子編『妖怪文化研究の新時代』せりか書房 2022年3月

「国立国会図書館デジタル化資料等の海外送信・その後」「国際日本研究」コンソーシアム編[荒木浩、白石恵理、松木裕美、ゴウランガ・チャラン・プラダン]『After/With コロナの国際日本研究——パネル発表「ヨーロッパからの報告」を受けて』国際日本文化研究センター 2022年3月

「ビールのCMはなぜ各社似ているのか」『週刊女性PRIME (WEB媒体)』2021年12月

インタビュー「著作権強化は、創造の妨げも」「縮小社会」の影響、可能性を探る」『京都新聞』2022年3月18日

マルクス・リュッターマン

●論文

「『良心』を考える」「国際日本研究」コンソーシアム編[荒木浩、白石恵理、松木裕美、ゴウランガ・チャラン・プラダン]『After/With コロナの「国際日本研究」——ヨーロッパからの報告』国際日本文化研究センター 2022年3月 103頁～118頁

劉 建輝

●著書

『戦時下の大衆文化—統制・拡張・東アジア—』(石川肇と共編) KADOKAWA 2022年2月 384頁

『写真・絵葉書からみる戦前のスポーツ—2021 日文研一般公開所蔵資料展示図

録』(監修) 国際日本文化研究センター 2022年3月 57頁

●論文

「報告5 アジアにつながる地域文化—上海・長崎・大阪という文化街道」西村慎太郎、木部暢子、吉田丈人、川村清志、劉建輝、日高真吾著／高科真紀、セリック・ケナン編『新しい地域文化研究の可能性を求めて』Vol.10 弘文社 2021年11月 64頁～74頁(依頼論文)

「生態・移民・鉄道—準備されていた満洲の近代」李曉東、李正吉編著『北東アジアにおける近代的空間—その形成と影響』明石書房 2022年3月 220頁～231頁(依頼論文)

「生態・移民・鉄道—満洲「近代」的形成軌跡」(中国語) 李曉東、李正吉主編『東北亜近代空間的形成及其影響』秀成資訊科技股份有限公司(台湾) 2022年3月 161頁～170頁

●その他の執筆活動

「失われた『絆』を再構築することが日中相互理解への第一歩」『日本人の忘れ物 知恵会議』京都新聞出版センター 2021年6月

インタビュー「春秋」『日本経済新聞』2021年7月1日

インタビュー「文化時評 従軍画家の絵はがきが語る誘惑」『日本経済新聞』(日曜版) 2021年8月22日

(46)

インタビュー「従軍画家が見た大陸の日常—日中戦争時の絵はがき 浮かぶ世相・風俗」『朝日新聞』(夕刊) 2021年8月23日

「序文」(中国語) 陳月娥著『從文化苦旅到鳳凰涅槃—日本漢字問題与語言政策研究』中国社会科学出版社 2021年12月

インタビュー「『忠臣蔵』本が中国で売れる理由 格差社会で『復讐劇』に注目?」『朝日新聞』(夕刊) 2022年1月27日

※本誌に掲載している業績は、日文研に在籍している期間のみの業績です。

(年度途中で着任する以前の業績や退職後の業績については掲載しておりません。)